

1. 開会の挨拶

人材育成・活用部会プロジェクトマネージャー 萩原 大作(エール学園 校長)

リアルに会いたい人に会うことができない状況で、お互いが持つ情報と信頼を共に共有することは大切なことである。本日は、未来につながる情報交換と信頼の構築を目指して会議を進めていきたい。

この座談会では、教育機関様と企業様から提供していただける以下のような「モノと情報」を具体的に共有し、未来へ繋げていきたい。

それぞれの教育機関の紹介、利用者様の紹介、企業様からの職業教育に関わる講座の実施、日本の就職関連の情報の共有、就職のためのマーケティングの企画・実施、大学・大学院進学のための情報、進学準備のためのEJU模試紹介と実施 etc…

2. 運営事務局より挨拶

人材育成活用プロジェクト 事務局 西村 康司(エール学園 キャリア支援室)

このミーティングは海外の日本語教育館様と個別にミーティングする中で、いくつかアイデアがでて、このような座談会ができればという話になった。

- ・企業様から、海外の日本語教育機関での学習者に対して日本企業について寄付講座をしていただけないか
- ・大阪観光局様の賛助会員様(700社)からの情報共有・案内
- ・留学生同士の交流
- ・日本語教育に携わる人達との交流、教授方法の共有、ビジネス日本語検定の情報共有とかどのような教え方など

今回は第1回目だが、第2回第3回と繰り返し行っていくことで、日本のことを分かっていたらいいし、海外の日本語教育のことも分かっていたらいいというような信頼関係の繋がりを作っていきたい。次回に続くようなネットワーク作りをやっていきたい。

3. 各国の日本語教育の現状と課題(韓国/YUKARI 日本語学院 大坪ゆかり様)

韓国も先週までは1ヶ月間、1日に100人以上のコロナ感染者が出ていたので大きい日本語学院は2週間ほどオンライン。今週からは少し緩和されてきて登校して勉強できるようになってきた。当学院はアットホームな小さな学院なので、先週も学生は登校していた。

韓国は政治的な面と多く関係があり、日本の商品を買わない等そういう運動が起こると、もう日本語を習わないなど日本語学院とかに影響がある。政府間の影響があると思う。

日本に行きたい学生はたくさんいるので、続けて日本語を頑張りたいという学生に感謝している。

4. 各国の日本語教育の現状と課題(タイ/さくら日本語学院 坂井 大様)

在タイ18年、奥さんはタイ人

・さくら日本語学院について

2008年タイ教育省の認定を受け、バンコク郊外バンカピ区に開校

ほとんど日本人がいない地域

在籍教員は全員日本人有資格者(日本人専任教師5名在籍)

日本語教育、日本留学&就職サポート、翻訳通訳サービス、年2回児童養護施設や孤児院で活動、日本文化体験

学生は半分以上が企業や人材派遣会社、教育機関からのオーダー
半分が個人

・タイでの日本語教育事情

東南アジアではタイはインドネシアに続き2番目に学習者数が多い。

タイ国内ではタイ人日本語学習者が非常に多い。

教育機関の数も東南アジアでは3番目。タイ国内では日本語教育は人気がある。

・タイの日本語教育の特徴

タイでは、中学・高校で第二外国語として人気がある。以前は「初めて学習します」が多かったけど、最近は中学高校で勉強してきた学習者が多い。また、日系企業の進出が多く、その社内日本語教育ということでの依頼が多い。

日本語学習開始年齢の低下、バンコクは学歴社会。語学力があると有利。

学習者も4-5歳もいる、小学生や中学生から開始する人が多く、学習者の年齢層が非常に広い。

・課題点

→教員不足。学習者の数が多いのに、教員数は東南アジアで5位にもならない。

学習者数が同じベトナムと比較しても教員数は3分の1である。

→ニーズも多様化している。現在は留学したい、日本の企業に勤めたいなど、いろんなニーズがあるのが難しい。

→日本人との会話がなかなかできないので、会話力が伸びない原因。

5.各国の日本語教育の現状と課題(タイ/スィーパトゥム大学 森 康眞様)

- ・歴史的、伝統的関係 600年にわたる交流が続いている
- ・外交通商関係 1887年9月26日→明治から133年
- ・経済関係(貿易・投資中心=製造業)4000社~5000社の進出
- ・ビジネス関係(経済活動の多様化)
- ・観光(訪タイ160万人≡訪日数130万人)ビザが変わってから
- ・現代文化(まんが・ゲームは昔から、アニメ・コスプレは最近、日本食・BNK48(AKBタイ版)・テレビ番組吹替など多面性)

世界的にみてタイは日本語大国である

→659機関 世界第8位

→教師数2047名 世界第8位

→学習者数184,962名 世界第5位

◇機関別学習者数(2018年度)

初等教育機関 2.18%

中等教育機関 77.78% 8割が高校

高等教育機関 11.09%

民間日本語学校等 8.95%

◇タイの日本語教育(高等教育)156機関(2019年2月)

国立(自治・非自治)大学 37校

国立地域総合大学(ラチャパット) 38校

国立技術工科大学(ラジャマンガラ) 9校

私立大学(単科・総合) 72校

◇日本語科目(主専攻・副専攻・選択科目)が開講されている大学

→国公立・私立大学 90校以上(57.69%)

主専攻課程がある大学

→国立(自治・非自治)大学 16校(43.2%)

→国立地域総合・技術工科大学 14校(29.79%)

→私立大学 11校(15.28%)

◇今後の日本語教育の将来、方向性

日タイ関係の発展は日本(日本、日本人)に対する「興味」という関係から、共感、信頼などを作りだすきっかけになってほしい。日本語を学ぶ学習者の動向は、今後の日タイ関係の進展・深化に関わっていくと思われる。

- ✓日本語が、人を繋ぐ媒介になってほしい。
- ✓タイ人の日本語人材がどうなっていくのか。
- ✓タイ人と日本人との友好関係を深める指標になってほしい。
- ✓国際社会における存在感をどうやって作れるのか、できていくのか。

タイには ABC プラットホームのバンコクデスクができています。
バンコクデスクを中心に周辺 ASEAN 諸国と連携を深めていくという流れになっている。
ただ、コロナ禍で現地スタッフがほかの国に行けない状況で、逆にタイ国内で活動している。
バンコクデスクは、タイ工業連盟のあるサトーン区にあるので、こちらを拠点に情報連携できればと思う。
(森興産株式会社 森 隼人様)

→ぜひ、バンコクデスクを紹介してほしい(森 康真様)

6.各国の日本語教育の現状と課題(フィリピン/One World Japanese Language Center 中津様)

フィリピンのメロ・マニラ内にあるケソン市に所在。

メロマニアは人口が多い→人が集めやすいかと思ったが・・・

人が多い＝仕事がある＝日本語学習者が少ない→地方のほうがいい。

TESDA(フィリピン労働雇用技術教育技能教育庁)のライセンスをとって運営している。

このライセンスが必要な理由は、ただ日本語を勉強したい人たちが勉強しているのではなく、日本に技能実習生や特定技能としてきている人の勉強の場であるため。

コロナ禍で3月9日から休校措置をとるよう政府からは言われており、運営できずにいる。

その間、日本語の勉強を続ける人たちのためにオンラインを使って授業をしているが、これは TESDA のオンラインライセンスを取っていないため、無免許運転のような形になっている。

今オンラインライセンスの修正をしているところだが、ライセンスがとれるまでは、サービス授業である。

フィリピンも政府がかなり混乱している。

各学校がオンラインライセンスの修正をしているが、どんな基準で発行しているのが明確でないため、かなり混乱している。

1日も早くライセンスをとって、事業確立を行い、日本に送り出しがでるように努めている。

▶既に日本に来ている人たちについては、何かサポートされていますか？(森興産株式会社 森 隼人様)

→技能実習の生徒に関していうと、管理団体様は入国後一か月、介護でいくと2ヶ月の研修というものがあ
り、その後のバックアップがある。管理団体さんが毎週一回日本語学校に通わせてスキルアップにN4はN3
に、N5はN4合格できるようにサポートしている。(中津様)

今、技能実習で来た方々が、期間が過ぎても帰れないという問題がある。
それであればその再就職としての特定技能、こういった中で一つの課題は日本語ということがあるので、それぞれの各国での教育だけではなくて日本にきてからのアフターフォローまで、ここに集まっている皆
さんとできればと感じる(森興産株式会社 森 隼人様)

7.各国の日本語教育の現状と課題(シンガポール/Tomo Japanese Language school 立松様)

15~20人のグループレッスンをしている。

主にビジネスや趣味アニメや漫画などが好きな学生に対して授業を行っている。教員は4名ほど。

外で食事や友達に会うのも5人までに制限されている。

食事する場所も1mの距離を必ず取らなくてはならず、その距離をとらないと約2万円の罰金が発生する。
授業はまだまだ私たちはオンライン。

5月からフェーズ1、7月からフェーズ2、その前にサーキットブレーカーというものがあ、それは完全に教育
機関も会社も閉まっていた。今は教育機関は1メートル以上の間隔が取られれば10人程度で授業できる。
フェーズ3にはなかなか移行しない。

学校によっては徐々に戻り始めたところもあるが、私の所は20人くらいまだオンライン

国内の感染者かなり減ってきているが、ドミトリーでクラスターが発生したりしている。

小さい国なので結構外国人なども入ってきているので、そこから感染者が増える可能性もあり、まだまだわか
らない。大学は、学校によっては教室で講義。

学校によって対応はバラバラ。

日本の状況がわからないので、実際、短期の受け入れなどどのようになっているのか。

地域差もあると思うので、今後知りたい。

シンガポール人の日本への留学生は非常に少ないが、大変優秀なので、ぜひ来てほしい。おそらく日本
国内に500人いない。日本国内にぜひたくさん来ていただけるようにお送りいただきたい。交換留学やイン
ターンシップではNSの学生は来ている。それ以外の方々も是非興味持って来てほしい。

(森興産株式会社 森 隼人様)

→海外へ行って帰ってくると、2週間の隔離が必要で2000ドル(約15万円)ぐらい実費が発生する。
学生自体は行きたいが、それがネックになっているところもあるかと思う。(立松様)

8.各国の日本語教育の現状と課題(マレーシア/ILOHA Culture Centre 小田様)

2013年マレーシアクアラルンプールにオープン

カルチャーセンターという名前をつけ、日本語だけではなく、日本料理や日本文化を学んでほしく開始

始めてみると、日本語を勉強したい人が多く、教室を増やし、

常勤日本人講師7名、生徒は800名

興味や趣味で日本語を勉強したい人が多く、アニメ、文化を好きになり勉強したい。

日本に行っても思ったように日本語が通じず、少しでも勉強したいなど。

全て個人の生徒、カンパニー向けはやっていない。

その中でも、日本留学したい人、日本に就職、進学したい人もいるが、コロナの影響で留学フェアがなくなった。これまでは留学フェアに行き情報を得ていたのが、フェアがなくなり、日本の情報がなく、生徒も苦労しており、日本語学校にも問い合わせがくる。

今までは受け身だったか、これからは日本の学校について勉強しないといけないと思っている。

日本でどんなことをしたい、どんな勉強をしたいなど、はっきりした目的のある生徒も多く、こちらからも説明もそこにあつたところを紹介しないといけない。

自分も勉強不足で、適切なアドバイスができるようにしないと、と反省している状況である。

9.日本国内の留学生の受け入れ状況(ホツマインターナショナルスクール 白木様)

ホツマインターナショナルスクールは4校

日本へ来る予定の留学生は各国で足止め。

先日、国費留学生は入ってくることで、市生越動き出したが、我々が扱っている私費留学生はまだまだ先入国が認められても、入国後の隔離措置が非常に大きな支障になってくると感じている

来年4月の学生募集に、各学校はこれからは入るが、現地にいけず、オンラインでの募集になる

コロナ禍で、どうしても日本留学を現実的に考えられない人も多く、留学候補者が減っている状況である。

10.日本国内の留学生の受け入れ状況(大阪YMCA 鈴木様)

白木先生と同じく大阪も入国できず、4月からの在籍性は対面もしくはオンラインで授業を続けてきた。

10月期はまだ入国できておらず、いつになるかもわからず、もし入国できても宿舎はどうするか、空港からの宿舎までの移動手段をどのように確保するか等の準備をしたり。

入国できない場合、どのように授業をすすめるか、オンラインにするか、入学期を延期したりするのかなどを準備しているという状況である。

11. 今後進めて行きたい事業や要望など、意見交換

今後、コロナ禍のこの状況での良い面はオンラインで繋がれること。

冒頭、西村先生からもありました通り、各国でどんな授業が行われているかの見学、企業様の寄付講座を海外でやってみたい、日本からのオンライン参加することが可能ならそこに繋げるなど、そういったことを進めて行きたい。ご意見や、こういうことをやってほしいなどの要望

(森興産株式会社 森 隼人様)

▶日本の専門学校の説明会ができないか。

日本語を使う機会を作りたい、日本と交流があってもいいかなど。日本での技術や、専門学校での詳しい知識の紹介などの説明会があれば、刺激になる。

各学校で勉強しているタイ人留学生の話を聞きたい。(スィーパトゥム大学 森先生)

→タイから日本への留学生は 4000 名いて、その学生たちが組織している学生連盟があり、イベントを毎年している。そこでタイ人はオンライン参加もできるし、今日の専門学校に集まっていただき、専門学校の説明会や、担当者との日本語の会話はできると思う。(森興産株式会社 森 隼人様)

→先日、同じように海外の教育機関に説明をしたところなので、可能である。

各分野での学校紹介、興味のあるブレイクアウトルームを設置して分野ごとに説明をするなど。

(修成建設専門学校 五十嵐様)

→タイからの入学希望もいる。日本料理、洋菓子に興味のある方がいて、生徒も増えてきている。

オンラインで、実際に授業で採用しているような料理やお菓子の講習などして、それをタイ人学生が通訳したり、現状の情報を共有したりできると思う。

(辻調理師専門学校 斉藤様)

12. 観光業における今後の取り組み

大阪観光局さんは賛助会員 700 社ある。今、大阪も観光業界は大変厳しい状況で、2023 年頃には回復が見込まれるが、その時を見据えた観光局の賛助会員様からの、寄付講座や、最終的には留学や短期留学に繋がるような取り組み、さらには大阪で就職していただくような環境作りなど、そのようなことを仕掛けていきたい。山口さん、やって行きませんか(エール学園 西村様)

→大阪観光局では留学生支援コンソーシアムを起ち上げた。

今年度より大学、専門学校、日本語学校、そしていろんな企業様にご協力いただいて、留学生の誘致活動、支援、就職などの支援をしていく、また大阪はこれから 2025 年の万博に向けて、非常に留学生に期待している。大阪観光局の理事長がその会長になり、いろんな機関を巻き込んだコンソーシアムを起ち上げようとしている。

留学生の支援活動とともに、大阪の高校では、海外へ教育旅行や修学旅行に行っていたのがいけない。国際交流を非常にしたいという学校が多く、web 交流という形で繋げようとしている。台湾、オーストラリア、韓国としているが、大阪の学校はたくさん希望している。ズームや Google を使って高校との交流をしてもいいという方いらっしゃったら教えてほしい。(大阪観光局 山口様)

13.ABC プラットフォーム内での繋がり

- ✓ 今後もメーリングリストやソーシャルメディアを利用して情報交換をし、ネットワークを広げていきたい。
 - ✓ 本日、十分発言できなかつたこともあるかと思うので、それぞれの学校様の発信できる資料などいただければ、集約していきたい。
 - ✓ ABC プラットフォームには、ウェブサイトがあり、そのサイトの中で各国の状況を交流できるようなプラットフォームにしており、みなさんの情報もここに掲載していきたいので、ご協力いただきたい。
 - ✓ 観光局様のようにチャットにも連絡先をいれていただきたい。
- (森興産株式会社 森 隼人様)

14.卒業生の就職後の感想

エール学園を卒業して働いている学生からひと言ほしい。
留学経験をして、日本で働いてみてどうですか(エール学園 加藤摩周)

「エール学園の卒業生のズェンです。
卒業後、ミヤゲンに就職しました。1年以上になるが、日本の企業で働き、いろんなことを学びました。まだ慣れていないことはたくさんあるが、これから日本で長く働きたいです。
コロナ禍ですが、会社の先輩や上司がいつも優しくてつだってくれるので助かります。
これからも頑張ります。」(ミヤゲン ズェンさん)

お給料は何に使ってる？(エール学園 西村康司)

日本の生活と貯金です。(ズェンさん)

15.閉会の挨拶

今回、第1回目だが、第2回第3回第4回第5回と続けていけるようにやりたいと思っている。
ぜひ、皆様毎回ご参加ください。

タイのスイーパーナムの先生からもあったように、見学会、説明会もやりたい。

日本語学校も、京都民際さんもレギュラーになってきている、おもしろい企画をやりたい。

大阪観光局さん、関経連も力を入れていただき、寄付講座も。

日本語をどうやって教えているかなど、みなさん、知恵を出し合ってやりたい。(エール学園 西村康司)

16.閉会后フリートーク

説明会はベトナム、インドネシア、タイ、中国、コロナの影響でオンラインの説明会もかなり研究できた。おもしろさがある。ぜひ、機会があれば参加したい。(穴吹学園様)

オンライン授業を他校さんがどのようにしているかを知りたい(大阪バイオメディカル専門学校様)

アスク出版さんはこんな教材を作ってほしいなど希望を伝えれば作ってくださる。オンラインも含めて低価格で色々、作っていらっしゃる。学校さんと連携して、教材開発をなさるといいと思う。気軽に対応してくださる。(エール学園 西村康司)

→どんな教材を作りたいなど、ぜひ、お話をしたい(アスク出版 狩野様)

Tomoさんは何の教材を使っている？(森興産株式会社 森 隼人様)

→大地を使っている。スリーエーネットワークさんからの、みんなのような教材。絵が多い会話重視のもの。中級以降は違うものを使っている(Tomo Japanese Language school)

→ぜひ、「つなぐにほんご」など、アスク出版さんの的にはそちらかと。ぜひ(森興産株式会社 森 隼人様)

→オンラインで副教材を買った(Tomo Japanese Language school)

→JLPT オンラインハーフ模試も作っている。(アスク出版 狩野様)

日本語教師の卵とつながるということはどうか？(エール学園 西村康司)

→日本語教師に重きを置いている。日本で420時間を受けてこられているが、校内でも毎週研修を行っている。期待値までいかないと、教壇にはたってもらえない。教師の質だけは落としたいくない。

学生は一生懸命勉強したいと思ってきているので、それに応えたいと思っている。そういった繋がりをだしていただければと思う。(ILOHA Culture Centre)

各国の状況をうかがう機会はこれまでなかった。日本語学校でどんなことを学んで本学を希望しているのかということうかがえたことはよかった。

コロナ禍でどのようなことを提供できるのか、サポートできるのか考えていきたい。本学もオンラインでの見学会はしているので、そのようなグループにいていただきたい。ダイレクトでもぜひ。

オンラインでも実技をお見せすることはできるし、ぜひともご要望ありまさら。

また特定技能の話もあったが、本校でも留学生でも特定技能を希望する方にはサポートできる(辻学園 松井様)

→実現させたい。森さん、タイムスケジュールをくんでやっていきましょう(エール学園 西村康司)

弊社では専門学校より、日本語学校にいきたい学生が多い。とくに短期希望者が多い。

いきなり1年は心配。学校見学や授業の見学をオンラインでしたい。興味のある学生はたくさんいるので、ご検討いただきたい(さくら日本語学院 坂井大様)

→タイの高校生を1-2週間短期で預かり、そこから長期に繋げることもしている、ぜひよろしく願います。(ホツマインターナショナルスクール様)

日本語教育者の支援、日本語教育機関の支援をコンサルしている。本社は住吉区にある。

昨年起ち上げたばかり。先ほど、「日本語を話す機会がないので、日本語を話す機会を」ということだったが、こちらも日本人の学部生と海外の方を、これを機会になんとか繋げたい(合同会社おおぞら日本語サポート)

このような機会に南米の日本語教育機関の方々にも参加していただきたい。南米は時間が早いと参加しやすい。またこのネットワークに南米の教育機関も加えていただければ。(ヤマサキ様)

→回をわけて、少し広めていきましょう。(森興産株式会社 森 隼人様)

Agungくん、第二回をスケジュールを組んで実現させて、そのときには学校の説明会の計画をたててやりましょう。(エール学園 西村康司)

いつもメールばかりなので自己紹介を(森興産株式会社 森 隼人様)

→インドネシア出身で、4月に森興産(WA.SA.Bi)に入社しました。第2回のオンライン座談会も行おうと思いますので、ぜひよろしく願います。(WA.SA.Bi. Agung 様)

彼はエール学園の卒業生なので自慢しておきます。(エール学園 西村康司)

去年、国際人財活用ネットワークの交流会でアグンさんが発表してくれて、当社で採用しました。ほかでも行けたと思うが、当社を選んでくれた、ありがたい方です。(森興産株式会社 森 隼人様)